

令和5年度職員提案【アイデア提案】（最優秀賞、優秀賞及び奨励賞）

褒賞区分	受付No.	標題	今までのやり方	〇問題点・困っていたこと	改善方法・改善により見込まれる効果
最優秀賞	R5-0170	通年で軽装勤務(ウェルネス・ビズ)の実施	本市では、省エネルギー対策や地球温暖化防止を目的として、5月から10月までを夏季軽装期間と位置付け、ノーネクタイ・ノージャケット等の軽装による業務の効率化を図っている。 ノーネクタイ等による軽装の通年化については、環境省をはじめ、三菱UFJ銀行や三井住友銀行などのメガバンクが導入したほか、皇居、内閣総理大臣官邸、国会議事堂など多様な日本の有名なランドマークを有する特別区の東京都千代田区はもとより、神奈川県茅ヶ崎市や千葉県松戸市、長野県松本市、新潟県三条市、栃木県日光市等の自治体でも取り入れる動きが始まっており、本年7月からは神奈川県も通年輕装化を開始している。さらには、足柄上地域の4町に加え、南足柄市も検討を開始している。	近年の異常気象や地球温暖化の影響により、4月や11月でも季節外れの暑い日が多く記録されており、特に男性職員はネクタイやジャケットを着用することで、職員一人ひとりのパフォーマンスが下がり、市民サービスを維持・向上することが難しい。 さらには、新型コロナウイルス感染症をきっかけとして、国内でも働き方や暮らしなどあらゆる面でライフスタイルが変わりつつある。	コロナ禍での働き方の変化、気候変動の影響(温暖化)等に対応した働き方改革の一環として、働きやすいと感じる温度等の執務環境は、年間を通して職員一人ひとり異なることから、気温や体調等に合わせて柔軟に服装を選択できるようにし、市内最大の地域資源である「表丹沢」の魅力を生かすロゴマーク「OMOTAN」入りのTシャツやポロシャツ、プルゾンの着用を推奨する。 これにより、地球温暖化防止及び省エネルギーの継続的な取組に加え、OMOTANのブランド化や認知度向上、更なる働きやすい職場づくりのため、ノーネクタイ・ノージャケット等の働きやすい軽装での執務を通年で実施する。 また、職場にふさわしい範囲において、職員の服装の選択範囲を広げることで、モチベーション向上、ジェンダー平等の実現に向けた取り組みとし、職員一人ひとりの自主性を尊重し、「自由で、生き生きした、創造力豊かな組織づくり」の醸成につながる。 ただし、式典への出席等、社会通念上必要と判断される場においては、ネクタイ着用等について、必要に応じて対応するほか、TPOに応じた節度ある服装で執務を行う。
優秀賞	R5-0096	時間の無駄をなくそう！議員の聞き取りの効率化	本会議や各委員会時に質問が出された議員の登壇表示盤を逐一チェックし、登壇されたことを確認して、会派室に聞き取りに行く。特に決まりはないが、会派室前には順番表が誰かによって貼られており、その順番に従って聞き取りを行うため、フロアに待機している管理職があふれることになる。 また、来庁されない議員には電話で来庁日や質問内容を確認する必要がある。	本会議や各委員会の前に質問を出された各議員からのヒアリングを行うため、多忙の中、多くの管理職が4階や5階の廊下やロビーに待機して順番待ちをしており、時間をロスして効率が悪いと考える。 特に庁外の課は、順番表に記載することができないため、知り合いのいる本庁舎の人に課名を記載してもらうこともあるが、待ち時間が長くなる傾向にある。 早い者勝ちの感が否めず、不公平に感じてしまう。	これまで、市民クラブが行っていたような、該当議員の登壇予定、聞き取り可能日程、時間、課名などを最初に決めておくとその時間に来庁することができ、待ち時間が短縮できる。 このことを、議会局でルール化し、全議員にも協力してもらう。 また、会派室前の廊下やロビーに内線があれば、順番の時間の伸縮が後の順番の課に連絡ができるため、より効率的と考える。
優秀賞	R5-0058	災害現場想定したLoGoチャット(スマホ)の動画送信	ICTを活用した迅速かつ円滑な情報共有の必要性の高まりや職員間の円滑な情報共有を安全に行うことを目的に導入されているLoGoチャットは、台風現場などで被災現場状況の写真をスマホで撮影して、その場で任意職員に即時に情報共有できる。	河川現場では、流量や流速が重要な現場指標となるが、現在の仕様では職員スマホで撮影した動画をLoGoチャットで送信することができないため、現場からの情報共有を図ることが困難。	職員スマホで撮影した動画をLoGoチャットで送信することができることにより、より確実な現場状況の情報共有を図れる。
奨励賞	R5-0177	相続人代表者指定届の提出を1枚に！	被相続人に係る本市で生じる還付金等の請求及び受理に関し、相続人代表者を指定するためには、関係課ごとに相続人代表者指定届の提出が必要です。	現在、ワンストップ窓口であるおくやみコーナーを設置し、市民の利便性向上を図っていますが、相続人代表者指定届は、すべての相続人を記載したうえで関係課ごとに提出する必要があることから、提出する際の負担が大きい状況です。	甲斐市のように、市県民税・固定資産税・軽自動車税・国民健康保険税・後期高齢者医療保険料・介護保険料など、複数課にまたがる相続人代表者指定届を一括して受理することで、市民サービスの向上、事務の効率化を図るものです。
奨励賞	R5-0140	近隣市町村とのハード面の連携	消防車両の整備は、消防車両更新計画(秦野市消防計画第3章消防力等の整備計画第3消防車両の整備第2消防車両更新計画)に基づき、計画的に更新されているが...	消防車両の整備については、財政負担の平準化等を考慮しているため、新たな特殊消防車両の整備を計画することが困難な状況と推測できる。一方で、現消防力(伊勢原市含め)のままでは、新東名高速道路上のAA級トンネル内で発生した延焼車両の多い火災への対応は難しいと考える。	【改善方法】 伊勢原市消防本部との特殊消防車両の共同整備 【効果】 ・両市に必要(新東名トンネル火災対応車両)な高高度な車両の配置が可能となることにより、トンネル内火災のほか、多様化する各種火災対応力の向上が図られる。 ・車両の購入費用・維持管理費用の抑制 ・応援計画の見直し等による両市消防力の強化が図られ、特に特殊な火災が発生した際、早期に必要な部隊数を集結させ火災対応をより実効性あるものとする事が可能 【実績(他の分野)】 ・秦野市・伊勢原市共同消防指令センター 【他市の実績】 ・鈴鹿市・亀山市における「はしご車」の共同整備

令和5年度職員提案【アイデア提案】（最優秀賞、優秀賞及び奨励賞）

褒賞区分	受付 No.	標題	今までのやり方	＜＞問題点・困っていたこと	改善方法・改善により見込まれる効果
奨励賞	R5-0078	救急隊員の現場で生かせる介護技術向上について	救急救命士を含む救急隊員は、各種研修の場において、医学的知識を学び、救命処置及び応急処置を習得し、救急活動に従事していますが、救急搬送件数の半数以上を高齢者が占め、今後も高齢者と在宅療養者の救急搬送件数は更なる増加が見込まれます。これらを踏まえ、高齢者と在宅療養者に質の高い救急活動を行うには、介護技術の習得は必要不可欠ではないかと考えられます。しかしながら、救急隊員の介護に係る教育体制は、十分であるとは言えません。	救急車へ収容する際の歩行介助や、担架及びストレッチャーに移動させる効率的な方法、痰や嘔吐物の口腔内吸引方法などについて、特に経験の少ない若い隊員は、自分の行為を不安に感じることで、傷病者にも不安感を与えてしまいます。現時点では発生していませんが、誤った方法によって、生体に対し侵襲を与えてしまう可能性もあります。	消防職員特別教育「介護技術研修」として、高齢者施設の介護士などによる講習を受け、救急現場における介護技術を習得することで、隊員の身体的な負担や、知識不足からくる不安の払拭、傷病者への侵襲の軽減が適切な対応につながると考えられます。さらには、介護施設職員との顔の見える関係を築き、実際の救急現場においても、スムーズな対応が可能となります。
奨励賞	R5-0113	「秦野たばこ祭」や「市民の日」などのイベントにおける駐車場の満車等の混雑状況の見える化	駐車場の従事者は、他の駐車場の混雑状況を知るためには、本部に問い合わせをする必要がある。	満車のため、他の駐車場から案内された車があったが、案内された駐車場も満車のため駐車できず、他の駐車場を案内する事態となった。	【方法】 総合防災情報システムを活用し訓練環境において、地図上の任意の箇所アイコンを配置し試行的に運用することが考えられる。 【効果】 地図情報システムを活用し、駐車場の混雑状況などを職員間でスマホにより共有することで、市民にリアルタイムに情報を伝えることができる。また、環境が整えば、市民に対してホームページでの公表も考えられる。